



古契三唱

全

遠 13
1154



阿 13 時

115-4



古^コ突^ツ三^{サン}婿^{シヤク}白^{ハク}
 潮^シ光^クや^ヤ波^ハ
 の^ノ濱^{ハマ}萩^{ハギ}北^{キタ}
 夕^{コトバ}の^ノん
 や^ヤの^ノん
 南^{ミナミ}籍^{セキ}育^{イク}

年^シ冬^{フユ}伊^イ勢^セ
 娘^メの^ノん
 新^ニの^ノん
 朝^{アサ}州^{シウ}乃^ノ

明治廿七年
九月廿七日



名女子
女肆言イロガトコトバ
人情シヤウテタ
の人物シヤウテタ
人徳シヤウテタ
をシヤウテタ

そのものは如ニカぞ。これこそこの世
を冬をたのしみもの
の。我未樂フレイダタノミズ
何タケムラのシヤウ上シヤウ腦アをア樂アむ。
白菓梅家イテツクヤが黄ウナギ麴キをク食クむ。
大木庄ホの饅タ飢モチ餅モチの失イをイる

誠子志り。あや古契コトイの三娼シシヤク子阿ら
る。さけの殘笑サンシマクももえさへ
り。やうきり
るのセツやのひどとめん。
紙カミもシらふシラひらヒラの年。

通人の羽織ハオリ長きまきの
日。せ川戸セウフ陸母ラゲツが
別業ベツク松マツ風フウ音ネ子コ
毫ホウかカいイる

作者

京傳誌



序

京傳さそめあ〜三ッの色町お
らうらう。今一冊子と著^{アラハ}り。是と
おぬけを。ゆべけの^{ヒル}昼寝の^子白紙
しんひらう。ちやせにめを傾^{ケイヒイ}球
の^ハはらう。あぶらもるぬ。さき
大纏^{オホトビ}あまう。代^イり。竹^{タケ}を^ノく^クぬ
今も人のほめさる。あはれ^{ナニガシ}何某を

うれひげんや。あまの^{オホトビ}町^{カハ}抱^カの
あのこと^{オホトビ}あはれ。あぶら^{オホトビ}を^ノく^クぬ
ぼんくらう。あぶら^{オホトビ}を^ノく^クぬ
あせ^{オホトビ}。その^{オホトビ}あはれ。あぶら^{オホトビ}を^ノく^クぬ
さき^{オホトビ}。あはれ。あぶら^{オホトビ}を^ノく^クぬ

山王町さそめのお

あはれ

あはれ



吉原

北方有佳人

鄭 江都 代 李 樓 多 美人
鄭 江都 代 李 樓 多 美人
鄭 江都 代 李 樓 多 美人
鄭 江都 代 李 樓 多 美人
鄭 江都 代 李 樓 多 美人



古契三娼

鏡ひとらうきとね日かゝー江戸の表されを所江戸の
鏡ひとらうきとね日かゝー江戸の表されを所江戸の
鏡ひとらうきとね日かゝー江戸の表されを所江戸の
鏡ひとらうきとね日かゝー江戸の表されを所江戸の
鏡ひとらうきとね日かゝー江戸の表されを所江戸の

はるまじ。牛と云痛の南ふとまつ。ぐるにやふすこてり。
夕小笛とあいて新小は葉の衣と若一。きのよまて穉儀
あたるいー番をりも。けよの地まのむとさうもるぞじ。
通町のほり小横町あれは横町の外小新をひくま。
八百八町八原川本町の中あめをえさうも町道ふりま
江戸橋場ふりまほりーごじ。ハ話しく又もらなりす。
稲荷新を小白虎湯の肴板けーハ下の谷ふりま
る遠るるぞく。下踏新をと用てハ焼築のあけひ

あろくく樂を新をとありてハんとさめのとしく
清女のころは思ひあする。樂師新をゆ樂のま
ふよるべ朝鮮の弘きまより位ぞく。不動新をり
纒暇登るけーハぞくあをの月ト口あらん。猫屋
新を小新がをるけれど。既新をふこころ
一腔あり。朝の早新を小饅をきあきとる。餘乃
あきくと残念あれ。新せ新をの童ハ有籠の新
向やとくさひ。狩妓新をの籠の破ふると画一

勅^{しやく}楽^{がく}院^{いん}の^ま崔^{さい}あるべし。うる^る名^なを^に記^き新^{しん}なるもあらず。
家^{いへ}ふ^みんで^に新^{しん}なる^い。金^{きん}谷^や中^{ちゆう}納^{なつ}言^{げん}の^い極^{ごく}め^いひ^{ある}
古^こ流^{りゅう}もあらず。ま^まの^い小^{せう}金^{きん}谷^やも^あれど。
圍^いりの^くま^まく^ある^故ふ^くく^名づ^けし^もを^ぞじ。
人^{ひと}あ^らふ^さえ^ずら^うの^いは^ばく^世帯^{たい}の^いや^めと^あり。
鏡^{かがみ}と^だハ^付の^目く^ふか^らる^とう^りと。家^{いへ}文^{ぶん}と^あり
山^{やま}が^のく^らふ^表と^あり^まば^長の^浪人^{なみのり}ありて
所^{ところ}子^こ孫^{そん}も^いは^ば毎^{まい}日^{にち}と^あり^て祝^{いわ}す。ち^ちう^うは^はく^きを^ぞじの

中^{ちゆう}の^い日^{にち}み^かの^あり^{あり}。勅^{しやく}下^げ踏^{ふみ}の^い直^{ちやく}無^む傷^{きやう}ハ^花の
む^むご^ごあ^まり^ねも^ある^とあ^まり^る。川^か越^え極^{ごく}を^ぞじ^堂
建^{けん}を^ぞじ^が不^ふを^の風^{ふう}昌^{しやう}表^{ひょう}色^{しき}ハ^片一^か一^か一^かぎ
濁^{じやく}金^{きん}わ^わけ^のを^あ入^いは^ばや^のう^ごん^茶あり。
鷄^{けい}ハ^砂水^{すい}不^ふね^出と^あり。日^{にち}間^{かん}の^いん^んく^川を^ぞじ
大^{だい}の^い屎^しと^あり^ねい^ても^あり。己^{おのれ}と^あり^た新^{しん}の^いは^ら
志^しの^いや^まを^ぞじ^川を^ぞじ^のは^らし^たん^をぞ^じ。小^{せう}將^{しやう}基^きを^ぞじ
所^{ところ}て^いる^が毎^{まい}日^{にち}と^あり^て。回^{わい}て^は金^{きん}根^{こん}二^に枝^し小^{せう}雲^{うん}の

まろやち一ツとくま一ハ家のこころあり。勝手
よりそばやのちぎよびうけてぢうけニつとあつちけふ
女房おしやうぢやう盛かよふのくとまきやハ残のこりたるちやうけと
ひや極きやくくけてくまんのとまあるだ。大屋おほやどの娘むすめ子こっ
寒ひや涼りやう小目こめと見え一ひと向むかふの親おや父ちち。看かん經きやうふねむも
と僅わずか守まもり。此この小目こめのちさく見えぬ形かたち及およびの位ゐひも。固かたまふ
植うておくれさす。くまのひとよまきてまのふぞり竹
と作つくはれも。そこの果くだ報はうとしてくる大おほ屋やをふもあれ。

ハハ母のトの名とけあそよとあつちあさせ。ゆくとハ池の
首くび尾びとくえて何なん新しん造ぞうなるともよあを替かへんかきうまじと
まづく愛あいお周まわりありけるふ。母ははありハるや歩ありけり
あのみあまのちせをわたりて急いそ小こ白しろ化われりともれ。ま
里さと云いふ茶ちやのちぬ。雑まじりもゆりかりき。男おとこ女むすめお小こ信しんまで
法はふけゆきま一日いちにちのよまそいささか若わか吐はと何なん種しゆのちぬる
のこ。ちち植うのまんちやういあせと己おのか月つきとちけらりま
代人たいにん金のかねのふくちや日ひとま。茶ちや茶ちやの梅うめありふ人ひと仕しして

その日さうき毎つねふげうひの原かんげへ後附おしおたるは見えも。
泥どろ龜かめがゆり一本いっぴん足あしはほしめく。一度いちどよりかき出。日ひあ
の七ななはさうき小こ残のこ一ひと去こぞ毎ま世よはしり親おや父ちちをらあ
乃なくらびらかか肌はだぬぬでま鯨まぐろのさうう引ひき寄よてあ茶ちや碗わん酒しゆ
ああるる前まへとといいああるる後のち日ひのかハハ姓せい氏しとと申まをすす人ひとききけけ
くくららももややままととももととくく女をのせの中よよここそそけけ團だんの向よよハ
妻つま小こ蓋おほてて古こ文ぶん字じああるる際さい子ことと立た大だい山さん石いしの
はは札さ小こああるるぞぞおおちちるる宿やど札さ小こ女を中ちゆう使しかかととゆゆひ

仲なつとと名なががくく小こ紀き一ひとへへのかとと源げん川せん下かモモ本ほん場ばの川源げん
考こうの娘よよててゆゆららまま附ついいままささたたのまをを撫なととひひくくとと吹ふ。
誰たれももでで汚よご田でん目めがが一ひとととてて括くわびび。ぎぎりりくくああるるああどど
とといいてて船ふね虫むしのこよよととんんややのけけけだだおおてておお油あぶら罌けいりり
けけ一ひと才さいのゆややららくくららのさららととててナナ七しちのとりりががまま
あありりてて土ど揚あげくくゆゆととよりり。ああままのうへへ日ひととみみああええ蓋わい
上う田たの光もも夜やのあままくくくく小こああるる。芝し原げんをの屋やああ
ままひひととほほものがせせふふをを新しん川せんの浩海かいとと宿やどああららももああ

こころ程の金盛。その後を承りてあり仲町へ出てより
者流とよむるも所の習いへ。光陰の三層堂のほ
矢よりのみよく。もや中うぐましらみもあまふれ
うーをかえて表槽へ出。を白くして新造と化てあり。
額ふ小ぢくかてま。ごのゆ仲とあご名され。ごあ
よるるせに己がこころて造りももいれけりぞし。
あらし縮のちまきもるあわぬじ。さうさうし
まうりてはひしうさうも。なまがまのそけよ

あらしで、さうらうとよあふ下。このゆ素とて白
まうらうののさうらうしては世とさう。あご名で
あらし男と夫婦のやけして。去年のまより勢
といれけ彩の位ひ。昔々人あ結せし月の今へ
人の髪も夏せとむとよ世流り。九又二層の借家
あらしを教て。のさうのこころさうさうらうあてら
越張の三たちまの浮き理なり。さうはあ教え
うだつ重流の九折のさうはけ捨子張物の中扱ふ

隠てんえねど相州新根汗薬湯。二夜入廿日網
口入夜入は拾八網。下あう六ナ日網とある也。看板とくけ。
口面は病のあたるあうけもひんの病の治合意。信濃
の一木子守人おもしろての夫婦道。直う五五
金川せぞ名小あまの長尾門づらの大百姓の
獨息子よして蕉風の面白くあき誂遊もあし
やう。其あも下ゆとくも後まうらして。江戸の流り
唱も先い人がさだめ守り。稲毛厚木の他たあ

天五丸の又師女。まごへお下ふんはせうま川でのあまの
女房あふは海軍の大治の生れ。新治村とく小あふ治
新あれたる若者の娘けり。何あや十一のうーあま川の
宿へあまのさ。いづもわとらうらと抱り。実のへさう
ゆらにの毛もあまの髪とさうて坊主あま。ひら袖の
布子ふらんのかびとさ。ひせんうたあが。小ぢあつてい
ゆら。実のうらのあまの各とほいて。あまのくもあ
か。今の亭まにゆとまあり。焼蟹合合あ申し

有り。板巻でなれとあるこのけて、おて地まきとら^ま程のま^ん
あり。卯心いなりま。あうとく。お川宿の裏坂屋の亭主
とうぢ湯治のゆづげ。い女房ふらんありてあり。お徳松を
 お川のらうがえ。お川のあふとぎまわけてうら掘か
 のとよろふ。野風。はじ。村まがれつふあうんを。谷も
 袖うとわうとありま。九曜の星の合下付くうと
 ありま。今の特々ことと。い袖浦がりの日とまき
 おま川よりるでいひまへのうとまのらうとふま

けれとがしとくしとくう。六百石の田地
 と契しへし。出ま秋の御定合ねバ。おやが今と
 たまう。お屋老の耳へしとあ。在
 所と追まう。それれを。袖浦も薩摩の傍まじ
 山のそれえんよ。うけらるべさ場まとらう。く。
 まうとらう。この年のそれ年。つで。南はんを
 海苔とらう。後世とせける。伯父おぢとおやぶん。う
 い新しんの備ひあ。今ハ袖ううのおく。く。

住居あり。女房志しむるはくせしむるじやうな
まゝさこのあれど。せがなをたのむるやう
せまいのくりま。い。風の勢よあせぼして
いつう家のせむぐもろろ。柳のこしのたも
住家とかゆれをまぬも。江戸あれくゆれと。
女房に古々志し。げんや。いん境二をん境と
ゆり奥の月利と。おんるすのともあるも
おろしり。貝奇の吹奏の且より。綴り

雨催を秋のゆべま。いん。笑まると。かりく
ゆるをだるせあさせまいあり。さればんのゆくえと
あのかげ。種ごめあさ。かく。ことさ。川竹の
身かくと笑ま。下せと。まると。さう
くま。一。と。ま。ご。い。づ。こ。い。う。あ。る。人。の。身。と。ま。か
せんも。ま。れ。ど。だ。い。づ。の。気。後。評。ま。ま。う。る
る。ぞ。う。一。考。う。ま。う。ら。れ。ふ。考。ま。う。り。出。さ。る
も。え。ん。の。あ。る。の。が。実。ね。る。べ。い。こ。ん。の。ぬ。ど。ん

ト子更お侍お侍とていへ
火を入るもちりこころい子とぞらうどらいい
へ孫いばけくもがくいかちく。い孫い子い疵いとつけ
いいいいおい仲いよいあいおい孫いくい小い侍いどんいこのいふいのいつい
といついけいけいまいういといまいういひいついといむいおいよいいいらいふい
ハおい休い久いおい仲いけいさいいついそい志いやくいがいいいういごいざいりい
やいしたいくらい。休いもいやいしたい。おいまいくいさんいもいあいまいハ
おいいいまいさいんい。ぜんいていんいおいめいへいさんいよいハい志いのいぶいがい
このぶらうのおい似い合いるいまいくいまいよいおいよいいいらいんいらいがい
そいふいおいついせんいまいがいまいこいハいあいらいちいのいりいをい時いをいらい。
まいがいらいがいまいのいあいりいのいまいさいさいおい孫いおい仲いさんいハ
まいのい廊いのい風いといのいこいんいどいまいおいりいあいんいぞいどいやい。
むいまいびい兵い庫いがいんいやいついたいまいまいといらいうい田いのいひいめいつい。
といついのい女い侍いのいまいがいまいといどいついあいらいけいおい仲い。
といいいのい風いのいまいのいまいのいまいこいがいこいういけい。京いらいるい。
まいぞいがいいいらいういさい。源いのいでいまいくいどいといやいつい。えいんいどいんい
むいまいびいまいおいといこいおい田いのいまいまいらいぬいまいおいよいいいらいんいらいがい。

そふおつせんまがまこハあらちのりも時をら。
まがらがまのあうすり。まささお孫お仲さんハ
まの廊の風とのこんどまおりあんどや。
むまび兵庫がんやつたままどらう田のひめつ。
といつ女侍のまがまとどいつあつけお仲。
といの風のまのまこがこうけ。京らる。
まぞがいらうさ。源のでまくどとやつ。えん
むまびまおとこお田のまらぬまおよいらんが。

とらのひとりのさ。ぶらや敷いに憑た介といふがあら
やした。その婦いは、いまのまさんがおいあいおいら
ふがどぶどぶうやした。義い丈夫いぶい妻い治いと云
が、いい浄いらういさいせんてくいのいらいるいるいのい婦
へゆぐ。その婦のぢいいやいへい入い来いぬといふが
はまいぢいいやいといぶい新い造いがいひいかいるいさいらいく
ついきいたいまい田いかいけいらいやいらいぬい新い造いといういま
まいらいういやいまいといらいれるいまいんいどいうい。新い造い

ぶらけやらのい。そのぢいよりどんまやびらら
どいぶいじいまいるいていらいくい。向い前いよ
やいらいまいまいらいやいまいといういまいやいついていまいまいさ
そのまいまいのいぢい。そのまいまいといまいといまいいいらいしいい
まいぞいといついくいやいらいぬいしいぶいさい。女い島いもい今いらい
ういついくいかいらいやいしたい。今いでいらい新い造い松い坂いのいいいまいらい
其い君い佐い海いをいぶい町いづいるい。あいたいづいぬい村い田いというい。
そのまいまいといまい。方い松い坂いというい。新い造い。あいまいのいまいまい。

秋叶あきばぐ。こつ花はな入いれ海うみやとて屋やから。林はやし
崎さきあぞがこつものさ。そやう女に所しよハ神かみくさい
ううやくそくとさやん新しん造ぞうがうう付つて
ちや
昼ひる夜よさ。ものもとそやう。こつことちがうく
あまのあまの詠えい美びもこつとい目めさ。そくくこれぬ
此こゝ位ゝ迄まで雅みやびと下くだま。その女に方かたの名なをまきくげも
せんううやせ。それと仕つか直ただ札さとりやん。まを
おこくくやせ。このうらまもま

三人さんにんつさぐ。こつうぐ。せん出いやせ。それとこを
なんや云いやせ。みうま。かゝるのさ。びことを正ただめんと
はるやもひやせ。せんくま。いもの。い。ま。目め
そや。お。う。や。せ。お。ん。こ。と。い。ま。と。こ。ん。ま。か。げ
ん。せ。こ。あ。ら。び。や。せ。よ。う。ら。ハ。中ちゆう。座ざ。とい。つ。く。
ま。ん。中ちゆう。女に指さしが。り。女に所しよ。一ひと。の。ご。そ。う。た。が。お
川かわ。ト。や。兩りやう方かたの。こ。く。く。ま。ら。が。り。女に所しよ。さ。
ん。こ。く。く。の。ま。と。濱はま。とい。ひ。や。せ。完かん。ら。う。の。松まつ。子こ

下々ある産うぶと下々家いひといひやと。天皇の
 一づんがめざやま。六月の七日十九日
 ちびこぎりやと。そしちた能えがお出でやと。廿
 六夜ハちその白しろ。妙たう園くわん寺じ北きた仁に王おうさん山さん岸がし村むら
 ちのぢりやと。びつりちかざやと。あ美み子こ
 捕とらととぞとままらら所ところさ。そんせのままるるハ橋はし向むかへ
 あそびあそひひややままらららら川が岩いわへへけけや
 りよりののささ仲なつつつるる吉きちといいつつるる新しん内ないののげげいい者もの

八はつつとと今いまハはおおりりややとと、お保ほややららむむ村むら田た屋や
 ののいいふふはは枝えややひひ。ととししくく止とむむややののいいふふはは
 枝えののおおとと、お保ほ家かややとと、お保ほははちちよよのの
 ちちやや。おおいいちちややとといいふふはは、お保ほははちちよよのの
 ちちややののとといいふふはは、お保ほははちちよよのの
 ちちやや。名な代しろののままちちくくいいふふはは、お保ほははちちよよのの
 ちちやや。ああんんそそちちややとといいふふはは、お保ほははちちよよのの
 ちちややとといいふふはは、お保ほははちちよよのの
 ちちややとといいふふはは、お保ほははちちよよのの

ぬら〜くらよとら〜やと **お正**く〜〜**孫**お川
のはでか〜の〜や〜は〜か〜ぬ〜けのよ
〜とのよのやの **所**へ **茶**の **枕**と **お**〜
やと **お**〜
けのあ〜とやと **お** **仲** **源** **川** **一** **や**
か〜茶屋へか〜〜 **外**の **茶** **ば** **ら** **き** **の**
よとけ〜とら〜よと茶をうら〜
〜らせやととふとると〜 **あ** **ぞ** **成**

女うららの娘うら〜の **お** **正** **と** **ら** **の** **お** **川**
がむ川うら〜とら〜やと **ま** **ら** **き** **の**
川〜子やのやの茶屋への **お** **の** **あ** **ら** **は** **ら** **れ**
ぬらととら〜やと **あ** **ら** **は** **ら** **れ** **の** **お** **川**
との〜 **外**の **ら** **や** **屋** **で** **あ** **ら** **は** **ら** **れ** **の** **あ** **ら** **は** **ら** **れ**
あねらと **お** **の** **あ** **ら** **は** **ら** **れ** **の** **あ** **ら** **は** **ら** **れ**
〜 **あ** **ら** **は** **ら** **れ** **の** **あ** **ら** **は** **ら** **れ**
らら。茶をとら〜とら〜 **あ** **ら** **は** **ら** **れ**

美^び夕^ゆさんや美^えあさん。美^えはさんあんそぞ。
くらあはおつさ合^{あひ}めんをちがうん。まじり
ううへきさんしこよ。お^おふそのまじり品^{しん}のゆ。さ
かうさお^お仲^{ちゆう}ふつじくやのえんごうやうし
いぶがさやくのいぶご。廊^{らう}をいぶ新^{しん}造^{ぞう}を出^いす
と美^えあさんあひごうしき^しのけやあかうのしき
しことと美^え揚^{やう}あのとらやと。是^{こゝ}に合^あひのう
るいこと。あひまのあひさんあひげくまのあ

くはあの様とちよいと所しとああう。何う
よるのら。それが通^とさすあひく。ほううのよの
でもさういふ志^しのあひくしこと。あひうは
とんあはけさあひくいじやと。きやくが案^{あん}をれ
抑^{おさ}んをみずんあひくしと出^いすやと。あんあひ
あひあひめん所^{ところ}や名^なとそまじり海^{うみ}へこれ
くがうやと。美^えあさんあひくのあひくしとあひ
ふ袖^{そで}二つはくさ。信^{しん}符^ふとけくしとあひくしと

ござりやき。そのおとハんまてんぐのきりやう
 さ。それまのらそらきのはくふハ下帯^{おび}あんで
 由下々のほくごうう三えあうう一のさとうり
 かしんく。きごごみことねんぞもとるれさ。山びら
 きハ三月廿二日うう廿七のまごさ。ハエんさぬれ
 まううハ八月廿四日十二日。ハ日ハ再うう
 といひく。本場とみく^{いこ}流^い楽^らがううやき。それ
 いるせといふ。本場の^い橋^はがせぬいから流^い楽^らハが

ととぬのさ。二も。花ハ代ハ本場のら押さ
 ありやき。中と本場^い擬^いおとと云まううの
 出や一ぬごうらうがふいぬ志づんハまびと
 のふれらうららふ。そびきう^い給^い存^いといふ。は
 ぬらや一ぬまの志づんハ一何むぬがら所ふ
 志を一。今ハとらにれがらそむも名をうう
 所。あら^い柳^いのふやき夏^い腐^いハ押^い存^いがううや
 志^い物^いハ多^いく場^いみありや一ぬいよーどや

律金^{しんご}がらうふさ。いぬれ。惣介さん。ごうろう
あさ。のこえん押さ。むさめ。お急はといび
やと。押さ。祝あ。さん。かんき。ま。や。一。あ。う。
一。ま。き。う。と。や。ら。ふ。え。と。ふ。き。あ。ん。ま。子。
土。一。れ。げ。い。や。あ。た。美。吉。小。吉。こ。吉。孫。
押。さ。こ。ま。あ。ぞ。う。う。い。あ。あ。さ。押。と。あ。い。や
ふ。い。ふ。蝶。が。あ。い。い。あ。さ。新。次。五。介。信。二。吉。六。
あ。ぞ。も。や。ま。い。い。こ。ま。あ。さ。あ。い。ん。や。あ。い。ふ

一

押

押仲

み。と。ま。あ。の。ら。ぬ。も。い。み。ぐ。出。や。と。押。さ。ひ。あ
ま。い。と。や。ら。も。そ。こ。の。ら。あ。と。い。や。ア。福。く。子
押。仲。ま。い。れ。あ。い。も。あ。い。う。ん。あ。い。え。き。と。い。ふ
ま。い。ら。み。と。う。や。と。仲。町。の。初。む。ら。生。松。山。本。
が。い。ふ。一。ん。出。ま。や。一。あ。と。う。く。う。家。名
れ。あ。い。あ。さ。初。ま。あ。い。い。あ。あ。あ。あ。七。と
い。う。く。い。ろ。く。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。
ま。い。ら。や。一。あ。い。あ。い。今。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。あ。い。

押仲

押

地めんさ。今ふく口きういふも金のうらふ
 きぬをせり。六丁あんといふか。え。白ふれ
 清せめんぞ。仲町のうゆい。ふきら。八丁。
 今きら。こ音ハ麻人いふやし。仲きら。
 めん子らん。たまふ。八まをま。こ音。仲ハ。
 ふくお。毛治せん。次。奇。はるま。めんぞ。
 再ハ。磯ハ。うらへま。うら。一。ふれ。元年。
 ね。あ。じ。と。う。う。あ。せい。せ。金の筒井さん。れ。

きやく人のゆりひけく。介六と磯ハ。い。い。
 毎月。あ。そのと。こ。う。ら。れ。む。は。を。が。は。あ。ら。と。む。
 と。い。い。一。毎。仲。ゆ。の。く。や。ぐ。ら。へ。出。と。路。考。か。あ。
 かんむら。登。い。あ。う。い。あ。さ。は。う。い。丁。の。あ。ら。が。
 才。字。と。び。こ。い。あ。ん。を。く。や。と。こ。ふ。て。こ。こ。へ。い。
 と。い。か。け。あ。い。の。あ。う。
 といろのうらうく也。こ。や。ぐ。ら。う。も。な。い。仲。あ。さ。ま。
 ぞ。い。と。い。の。い。の。さ。あ。石。ど。や。今。の。あ。ん。か。
 く。や。あ。う。の。う。ら。う。あ。の。う。さ。あ。と。こ。あ。

抄 伊仲えんもどろいどよし五移人 **抄** 伊仲

きつひのけしから死やした原川トヤア抄こ
あいのやがそり合ぶ。ハうんさへ後摩子經
わあやと。仲丁や土びりねるもりの山
のしほく^くか^い物ととうまらるれさ地ちくれ
まどい^一ニえんちのうらと。あお金へ六もんち
とられ。あども金へ腰^{わご}と^めの^とり^り二百二十
目^めとら^られ^れと^とそ^そし^しく^く人^にと^とあ^あぬ^ぬし^しと。

とうづりしと。くらさやのこしとヤらん又
あつあつらやくせぬすと。ぶがれし移人と
りやと。こいらの揺れめき^くの^のゆ^ゆし^しと^と。
今^いじ^じや^や。提^{てい}例^{れい}や六^{ろく}形^{けい}も^もり^りあ^あそ^そし^しと。ハ
せんれ^れ持^もは^はあ^あ金^{かね}の^のや^やと^と。あ^あし^しと^とせん^{せん}よ。
けき^けし^しよ^よと^とや^やと **抄** 伊仲 伊仲いづる金の
形^{かたち}と^とい^いの^のと^とあ^あし^しと^とい^いの^のと^とあ^あし^しと^と。
の^のあ^あげ^げん^んま^ま子^こか^かと^とい^いの^のと^とあ^あし^しと^と。

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, written on the right page of an open manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top right and moving towards the bottom left. The script is fluid and connected, with some characters featuring diacritics or dots. The page is aged and shows some wear.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian, written on the left page of an open manuscript. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, starting from the top left and moving towards the bottom right. The script is fluid and connected, with some characters featuring diacritics or dots. The page is aged and shows some wear.

何事も。あぢきなき。せらる。れや。お。う。ら。な。も。と。さ。る。
と。お。も。い。ふ。さ。ら。し。の。お。も。い。ふ。さ。ら。し。の。お。も。い。ふ。さ。ら。し。
う。ら。な。も。と。さ。る。あ。ぢ。き。な。き。せ。ら。る。れ。や。お。う。ら。な。も。と。さ。る。

テウレレヤ

あぢきなき

あぢきなき

あぢきなき

